



# ほけんだよい

～すくすくげんき～

## 夏休みの交通安全

これから楽しい夏休みに入ります。ご家族で公園で遊んだり、旅行に行く方もいらっしゃるでしょう。楽しいお休みになるよう、お出かけの時は交通ルールを守って、事故に遭わないように気を付けましょう。

就学前の子どもを、道路で遊ばせたり一人歩きさせたりすると、道路交通法では保護者としての責任を問われることがあります。そして、何よりも危険ですので、一人歩きは絶対にさせないようにしましょう。

眠っていたとしても、車の中に子どもを置いて離れないようにしましょう。(夏の車内は、外の気温35度の場合エアコン停止から15分で人体に影響を及ぼす温度になってしまいます。)



車に乗ったら、子どもはチャイルドシートやジュニアシートに座らせ、ベルトもしっかりと締めましょう。

## 歯科健診結果報告

今回の歯科健診の結果は健康ノートに記載しております。ご参照ください。

6月に幼児クラス対象で歯科衛生指導を行いました。朝晩2回の歯磨きが習慣に出来るように自宅でも毎日声掛けと仕上げ磨きをよろしくお願いいたします。



## 6月の感染症状況

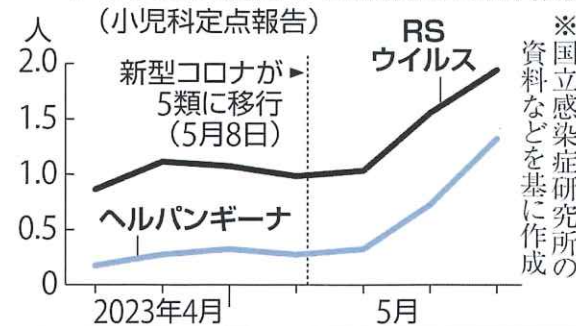
- 発熱…33名 風邪…1名
- 鼻水・咳…26名
- 下痢・嘔吐…10名
- 中耳炎…1名
- 突発性発疹…4名



## 夏風邪



### 子どもに流行する感染症の患者数



現在子どもの発熱、風邪症状が増えており、現時点でヘルパンギーナは昨年の5倍、RSウイルスは2倍の患者数があるそうです。流行時期より早く感染がおきている夏風邪もでてきていますね。病にかかると免疫を付けていくために必要ですが、小さいお子さんなどは重症化しやすいため、注意しましょう。

表 主な夏風邪の症状と特徴

	プール熱	手足口病	ヘルパンギーナ
流行時期	● 夏季	● 初夏～秋	● 夏季
原因のウイルス	● アデノウイルス	● エンテロウイルス ● コクサッキーウイルス	
感染経路	● 飛沫感染 (咳やくしゃみなど) ● 接触感染 (タオルの共有など)		
主な症状	● 発熱 (38度～39度) ● 喉の痛み ● 結膜炎 ● 腹痛 ● 下痢など	● 手や足、口内など全身に水疱を伴った発疹 ● 発熱 (37度～38度) ● 喉の痛み ● 食欲低下など	● 急な発熱 (38度以上) ● 口内の水疱 ● 喉の痛み ● 食欲低下など
潜伏・発症期間	● 潜伏 5～7日間 ● 発症 3～5日間	● 潜伏 3～6日間 ● 発症 2～4日間	

## 夏のやけどに注意しましょう！！

Q.夏の滑り台の表面は何℃？

① 約10℃ ② 約30℃ ③ 約70℃

→→→答えは③約70℃

7月のよく晴れた日(気温31.0℃、湿度45%)の調査では・・・  
すべり台: 70.5℃ ベンチ: 58.1℃ 地面: 69.6℃・・・になっていたそうです。

日差しに熱せられた遊具やアスファルトは、人の体温よりもはるかに熱くなっているのです。「すべり台にのっておしりをやけどした」「転んで地面に手をついたら真っ赤になった」などたくさん事故が起っています。熱中症対策はもちろん、夏のやけどにも注意しましょう。